

平成 27 年度 第 5 回「伊勢志摩定住自立圏共生学」運営会議議事録

【日 時】平成 27 年 11 月 12 日（木）18 時～19 時 15 分

【場 所】皇學館大学 9 号館 1 階 小会議室

【出席者】（伊勢市）辻企画調整課長（鳥羽市）濱口企画財政課副参事（志摩市）中野企画政策課長
（玉城町）林総合戦略課参事兼課長（大紀町）田中企画調整課長（明和町）防災企画課 霜 氏
（三重銀総研）伊藤常務取締役、別府副調査部長
（大学）齋藤教授、櫻井教授、筒井教授、笠原教授、板井准教授、池山助教、木村企画部長、橋本企画部地域連携推進室課長、梅川地域連携推進室員
* 欠席 （度会町）中井政策調整室長（南伊勢町）西村行政経営課長
（大学）近藤准教授、千田准教授

【議 題】

1. 平成 28 年度『伊勢志摩定住自立圏共生学』教育プログラム(科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)担当者について

齋藤教授より配布資料に基づき、『伊勢志摩定住自立圏共生学』科目Ⅰ～Ⅳおよび『伊勢志摩共生学』の内容および担当者について説明がなされた。

(1) 伊勢志摩共生学

- 1 学年必修。圏域の資源や課題の概要を学修。
従来の「伊勢学」を改善し、ビジョンに基づいた 14 テーマと領域を設定。
- これまで「伊勢学」では、専任教員と 3 名の非常勤講師にお願いして展開してきた。平成 28 年度からは、「伊勢志摩共生学」として専任の教員、特任教員のみで授業を実施する予定である。基盤的学修として本科目をきっかけとし、興味を高めさせ、「伊勢志摩定住自立圏共生学」Ⅰ、Ⅱのさらに専門的な学びへと進めてゆく。

(2) 伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ、Ⅱ

- 地域の資源や課題を学ぶ。
- 今年度は市町単位でお話をしていたが、来年度は共生学からの流れを踏まえ、テーマ毎に授業を組立て、それぞれのテーマに応じて市町の方にお越しいただき、それぞれお話をいただく形をとりたいと考えている。
- 本日お示した日程案はお越しいただく市町のご都合によって変更の可能性もある点を、ご了承願いたい。
- お示した日程でゲストとしてご対応いただけるか、できれば、年内（12/20）までにご回答をお願いしたい。

<板井准教授より補足説明>

- 今年度は講義毎にミニツツペーパーの作成、最終課題でレポート作成を行っているが、来年度は講義内容の中で数字的なものや理念的なものも含めて小テストなどの形で学習効果を高めて行ければと考えている。また、小テストを積み上げていくことで最終的には伊勢志摩の定住を学ぶ問題集（「伊勢志摩 100 問」）のような形にもできればと考えている。
- お示したゲスト案はあくまでも担当者からの提案であるので、よりよい案があればご紹介いただき

たい。また、市町担当部局、行政以外の団体様へのお声掛けの仲介をお願いしたい。

(問) ゲストの数は？

(答) 1名とは限らない。

(問) 授業前の打合わせは？

(答) 今年度同様、担当教員が行わせていただく。

(3) 伊勢志摩定住自立圏共生学 Ⅲ、Ⅳ

- 科目Ⅲは、新事業創出の方法等についてその資源をより専門的に学ぶと言うことを目的としている科目。近藤、千田両准教授が担当し、それぞれ2つ（近藤ゼミ・千田ゼミ）に分かれて授業を行い、時々2つのゼミが交流の場面を持つという授業展開を考えている。
- 科目Ⅳについては、三菱総研のテキストを使いながら、6次化に関する様々な問題点、課題解決方法を学ぶことをねらいとした講義形式の授業。近藤、千田准教授に加え、引き続き三重銀総研 伊藤常務にご担当いただきたいと考えている。
- 授業日（毎週水曜Ⅴ講時もしくは隔週水曜でⅣ、Ⅴ講時連続）を含め、本日の提案をもとに三重銀総研様とご相談させていただきたい。

審議の結果、異議なく了承された。

2. 平成28年度テキスト編集体制について

齋藤教授よりテキスト編集体制についての説明がなされた。

- 当初、補助期間中は作成したテキストを配布するということになっていたが、予算の都合上、できるだけ圧縮する必要が出てきた。
- 編集方法としては、専任の教員が中心となってそれぞれのテーマについて執筆することを考えているが、現時点で、一番新しいアイデアとしては
1つのテーマに対して1つのカードを作るイメージで項目を作成→ネット上にアップ→必要に応じて学生がそこから取り出すという形を検討中。
- テキストを作成しても変化の早い内容については、すぐに陳腐化するのではという指摘を5月の外部評価時にいただいた。デジタルの情報であればその都度、内容を新しいものに更新していくことができ、指摘された点にも対応できることから、電子媒体のテキストも視野に入れながら編集体制を組み立てている状況である。
- 図画類やデータ類の著作権の問題が発生することが予想されることから、現在学生たちにレポートを提出させている「manaba」という仕組みを使いながら閉じられた環境での利用を考えている。

審議の結果、異議なく了承された。

3. (継続議題)平成28年度開講「伊勢志摩共生学実習1~4」の教育内容について

板井准教授より配布資料を基に実習の計画および内容についての提案がなされた。

- (1) 既存のCLL活動からの展開
- (2) 新規のCLL活動からの展開

(3) 単独の新規実習

- ・(2) 新規C L Lからの展開について。市町から新規アイデアや現在展開している事業で受入れ可能な事業の提案等があれば、2月中旬までにご連絡いただきたい。

<補足事項>

- ・4日間連続である必要はなく、1日/週×4回など4日間分の時間が確保できればOK。
- ・実施期間は夏季休暇に限定せず、年内(12月迄)とする。
- ・教育活動なので担当教員の引率、指導のもと活動するものである。

審議の結果、異議なく了解された。

4. 圏域内アンケート調査項目について

筒井教授より配布資料に基づき、圏域内アンケート調査項目について説明および依頼事項がなされた。

- ・今年度はパイロット調査として皇學館中、高、大生を対象に実施。
- ・調査項目(46項目)は市町で実施された若年層対象の調査を参考に作成し、既存のアンケート結果と比較できるものになりたいと考えている。配列については再度検討。今後の流れは質問文の作成→見積り、印刷→調査実施である。
- ・平成28年度以降は各市町での調査を予定しており、教育委員会への事前打診など、お力添えをお願いしたい。

(問) 市町での調査の対象は？

(答) 中学3年生全員を対象とした、全数調査としたい。

(問) 実施時期は？

(答) まだ、特に決まっていない。

(問) アンケートを中学校で行っていただくにあたり、大学が対応すべき点があればお教えいただきたい。

(答) 学長名、センター長連名での教育長宛文書の提出や校長会への働きかけが必要ではないか。

審議の結果、異議なく了解された。

【報告】

1. 『第1回 皇學館大学 地(知)の拠点整備事業公開シンポジウム』報告書

(配布資料参照)

2. C L L活動について

- ・池山助教より「皇學館みらい対話団」による第1回対話セッション：「未来の町(市)民」の紹介がなされた。(配布資料参照) 開催時刻 18:30~8変更
- ・三重銀総研伊藤常務よりC L Lや地域インターンシップとして活動できるような、圏域内の企業や団体の活動等の提案も可能であるとの申し出があった。

3. 新聞掲載

(配布資料参照)

*次回日程

次回（H27年度 第6回）運営会議は、

平成28年2月18日（木）18時～ 皇學館大学 9号館 1F（911）にて開催される
ことが確認された。

以上